



「紗奈」に込めた思い 安心・安全な農業を、家族とともに

「安心して食べられる美味しいイチゴを届けたい」と笑顔で話す濱田さん。産直市場や道の駅など“お客様の顔が見える販売”にこだわってイチゴを届ける。農園のイチゴは娘二人の名前から「紗奈」と名付けた。幼い頃、こっそりハウスに入り、美味しそうにイチゴを頬張る姿を見たとき「子どもが安心して食べられて、小躍りするほどの美味しいイチゴを届けたい」と強く思ったことが減農薬にこだわるきっかけである。病気や害虫に悩まされたときも、この名前が原点となり、農薬を使わずに別の方法を模索する。大切な家族の存在が農業を続ける支えになっているのだ。

ハウスでは「さちのか」「べにほっぺ」「こいみのり」「さがほのか」の4種類、約5,000～6,000株を栽培し、ミネラルをたっぷり含ませた土から、甘みと酸味のバランスが取れた美味しいイチゴを育てている。

1月～3月の収盛期には、自宅で「紗奈マルシェ」を開催。獲れたての新鮮なイチゴをはじめ、イチゴジャムや、マルシェ限定のパバロアやパンナコッタなど、スイーツも販売。「体にやさしく」をテーマに、オーガニックにこだわりのある出店者に声をかけて、県外からも集める。

また、1.3haの水田では特別栽培米や無農薬米のコシヒカリを生産。12月末から3月までは水を張り、“冬水田んぼ”にすることで除草剤の使用を抑え、お米を栽培することができる。「安心・安全なイチゴとお米を、全国に届けたい」その思いを胸に、今日も大切な農園を守り続けている。

Profile

紗奈 ～ はまだ農園

代表 濱田由美

15年前、「定年に縛られず、家でできる仕事」を求めて農業の道へ。石井町の農業大学に通い、知識を身につけた。15aのハウスを整備し、農園を開業。減農薬いちごや無農薬米・特別栽培米を生産する。直売やマルシェなど「美味しいが聞こえる」販売方法で安心・安全な農作物を届ける。

